

ART KISS LEITER

FOR KUMAMOTO ART PEOPLE Contemporary Art Museum, Kumamoto

熊本市現代美術館発行 <http://www.camk.or.jp> [2009.春号] vol.41



日比野克彦さんとMATCH FLAGつくりました。

第33回熊本県高等学校美術展 2008.11.24

熊本県立美術館で開催された熊本県高等学校美術展の授賞式に出席し、本展に設けていただいている熊本市現代美術館賞を授与しました。

受賞作品は、熊本県立御船高等学校2年生の小林理さんの《I EAT YOU. II》。味わい深い表情の人物とカメレオンが画面いっぱいに描きこまれていながらも、鮮やかな色彩の対比によって、絶妙なバランスによる構成を保っています。また、カメレオンの肌触りまでもが伝ってくる絵肌が印象的でした。(A.A)



熊本デザイン専門学校のプレゼン審査 2008.11.28

熊本デザイン専門学校の授業で、今年度は熊本市現代美術館のヴィジュアル・アイデンティティ計画を行いました。事前に美術館を見学して、コンセプトを聞き、その後、美術館のロゴマークなどを考えてくれました。今回は学内選考の末に選ばれた10名の方のプレゼン審査のために行ってきました。いずれも、美術館はどんな場所であってほしいかをじっくりと考えた力作でした。熊本市現代美術館賞は竹本さん、学芸員賞は脇村さんと草野さん。ほかにも「感性が飛び交うところ」として、鳥の飛躍をイメージデザインしたり、よつばのクローバーとCAMKロゴを組み合わせたものもありました。

美術館に戻って、他のスタッフに資料をみせると、「レターヘッドに使ってみたい！」など、いずれも明るく親しみやすいデザインに魅了され、今後、美術館の展覧会チラシなど、一緒に仕事をしていく人が育ってほしいと感じた午後でした。(Y.H)

「命の花壇」が冬の花へと植えかえられました。 2008.12.2

熊本県立熊本養護学校高等科農芸班の先生と生徒さんたちが、美術館玄関にある「命の花壇」の冬の花への植え替えに来てくれました。今回植えられた苗はピオラ、ストック、パンジー、ナデシコ、ノースポールの5種類です。この日植えられた小さな緑の苗は、ぐんぐん成長して、今は色とりどりのきれいな花を咲かせています。寒さに負けず、一生懸命苗を植えてくれた生徒さん、先生方、ありがとうございました。美術館にお越しの際は、小さな花々の賑わいにぜひ足をとめてみてくださいね。(S.Y)



河原町文化大爆発 河原町アート大賞審査と青空文化会議 2008.12.7

2008年12月7日は河原町文化大爆発の日。空は雲ひとつない快晴のおだやかな日中で、河原町アート大賞の審査と青空文化会議と呼ばれるシンポジウムに出席してきた。審査と会議のパネリストは、アーティストの日比野克彦氏、広島市立大学教授の大井健次氏、それに私熊本市現代美術館館長であった。展示会場は、かつて栄えた繊維問屋街。密集し、入り組み、独特な雰囲気を持つ地域だ。現在では文化によって街の復興を目指し、細い路地の商店街を歩けば、関係者の熱気が直接伝わってくる。旧問屋街は、建物と人、人と人の距離感が素晴らしい。ノスタルジックな雰囲気が染み込み、昔あったであろう喧騒と活気を思い浮かべることができた。

出品作品の規模は、場所に合わせて正にライフ・サイズ。若いアーティストの表現は、誠実なものが目立った。大賞は、機知とユーモアのセンスに富んだパフォーマンスの竹之下亨さん、現代美術館長賞には、建物のすきまをたくみに生かした映像のUjiさんを選んだ。

シンポジウムのテーマは「マチとヒトをつなぐアート」。太陽をいっぱい浴び、空地の特設舞台にセットされた炬燵に入り、なごやかに真摯なディスカッションが実現した。お天気に恵まれ、河原町の昼時、会場と通りは賑わっていた。(T.S)



CAMKオリジナル冬のタペストリーが完成しました。 2008.12.18

当館布絵本ボランティアチームが制作してきた「CAMKオリジナル四季のタペストリー」の最後の季節となる「冬のタペストリー」が完成しました。構想から2年、手探り状態から始めて、皆で時間をかけ丁寧に作ってきた4つの季節はこれで完成です。型紙通りに作っていた初めの頃に比べて、個性あるアレンジがほどこされた冬のパーツのにぎやかさには目を見張るものがあります。ボランティアさんたちが心をこめて作ってくれたこの冬のタペストリーは、2月までキッズサロンに設置され、子どもたちが冬の森のパーツをつけかえて遊ぶことができます。美術館にお越しの際はキッズサロンで楽しく遊んでくださいね。(S.Y)



アラキーの子育て相談室 2008.12.21

「荒木経惟 熊本ララバイ」展の関連プログラムとして、「アラキーの子育て相談室」を開催しました。

アラキー、歌手で熊本聖母保育園幼稚園園長の坂本スミ子さん、熊本県立大学客員教授で前熊本県知事の潮谷義子さん、本展出品作品である《母子像》のモデルの皆さんをゲストに、南島宏前熊本市現代美術館館長が司会のもと子育てに関するトークが繰り広げられました。トークはゲストご自身のお母さんの話に始まり、《母子像》の撮影を終えてのモデルやご家族の心境、そして子育ての悩みなどの本日の核心部分へ。ゲストの優しい言葉に、涙を流すお母さんも。撮影時はお母さんに抱っこされていた赤ちゃんたちも、すくすくと成長してホームギャラリー内を楽しそうに駆けまわり、アラキーを始めゲストの皆さんも目を細めていました。最後にスミちゃんこと坂本スミ子さんが、歌を歌って下さり、心温まる素晴らしい1日となりました。(A.A)



ミュージック・ウェーブNo.011 原田千春「CAMKクリスマスコンサート」 2008.12.23

原田千春さんによるCAMKクリスマスコンサートをお贈りしました。長崎県出身の原田千春さんは、劇団四季を退団後、さまざまな舞台芸術の場で活躍されている音楽家です。今回のクリスマスコンサートでは、「荒木経惟 熊本ララバイ」展にちなみ曲をはじめ、「アヴェ・マリア」「カルメン」「エビータ」「サウンド・オブ・ミュージック」おなじみのクリスマスソングを歌って頂きました。原田さんの生彩な歌声に会場は酔いしれ、クリスマスムードの心温まる素敵なコンサートになりました。(M.O)



ミュージック・ウェーブNo.012 田中昌宏「CAMK新春コンサート」 2009.1.13

2009年最初のミュージック・ウェーブは、田中昌宏さんによるピアノコンサートをお贈りしました。20世紀後半に書かれた日本人作曲家の前衛的な作品や、田中さんが「荒木経惟 熊本ララバイ展」にインスピレーションを受けて書き下ろして下さった曲を交えてお届けしました。クラシックとはまた一味違う刺激的な音色に会場はじっくりと耳を傾けていました。(M.O)



CAMKEES研修旅行 2008.10.8

今回のCAMKEES研修旅行は、参加者17名みんなでわきあいあいとマイクロバスに乗り、九州国立博物館へ行ってきました。始めに、九博のボランティアさんがバックヤードを隅々まで案内して下さり、そこでは収蔵庫の二重構造の仕組みや研究用として扱う医療用の顕微鏡など九博ならではの設備を知ることができました。特に、全国から依頼が来るという作品修復施設はスタッフ共々興味津々でお話を伺いました。ボランティアさん同士の交流会では、それぞれの活動内容や今後の取り組みなど興味深い意見交換が活発に行われました。最後に会期中の展覧会「天神様」を観て、それぞれの感想を話しながら、もちろんお土産も手に持って九博を後にしました。とても充実した楽しい研修旅行となりました。(C.T)



CAMKレクチャー・カレッジ「荒木経惟 愛ノ讃歌」 2008.11.9

「荒木経惟 熊本ララバイ」展開連プログラムとして、CAMKレクチャー・カレッジ「荒木経惟 愛ノ讃歌」が開催されました。本展担当芸員の芦田彩葵が、展覧会開催の経緯と企画主旨、アラキーの作品についての解説、本展のための撮り下ろされた《母子像》の撮影エピソードについてお話ししました。(A.A)

矢部高校 作品展示 2008.11.16-2009.1.12

タイトルは「モトクロス」。福田繁雄さんの「ランチはヘルメットをかぶって」をお手本に、矢部高校の生徒さんが割り箸で制作されました。数にして約1000本。ライトを当てて影を確認しながら角度や重ね合わせを何回も調整されたそうです。影だけを見ると、とても割りばしの組み合わせとは思えない素晴らしい出来栄でした。この作品は美術館内の受付横に2ヶ月間展示しました。(C.T)



インターナショナル・アドバイザー講演会 サイモン・マーティン「核時代のアート: 欧米アーティストの原爆への反応」 2008.11.16

当館インターナショナル・アドバイザーのバランツ・ハウス・ギャラリー学芸員サイモン・マーティン(Simon Martin, Assistant Curator, Pallant House Gallery)氏をお迎えして、日本に投下された原爆やその後の核の脅威が、芸術家にどのような影響を及ぼしてきたかをテーマにお話いただきました。

「リトル・ボーイ」展やイサム・ノグチへの言及から始まった講演は、ダリヤポロック、ウォーホル等、多数の著名な作家の分析も交え、核時代のアートを通史的に辿っていきます。今回は主にヨーロッパとアメリカからの視点で、核を扱った美術や映画、核軍縮運動ポスター、あるいは核兵器の芸術家への影響などが取り上げられました。ポップ・アートにおいて消費文化のなかの大衆的なイメージとなってしまう「きのこ雲」や観光化したネバダの核実験のポストカードなど、日本における核や原爆のイメージとの相違も興味深いものでした。欧米の美術における核への複雑な眼差しを浮き彫りにしつつ、翻って日本の美術における核への眼差しの在り方を考えさせる刺激的な講演でした。(M.F)



GIII vol.59 Party9 Happy! Happy!! Happy!!! 2008.11.5~2009.1.12

熊本イラストレータズクラブ会員の、太田リカさん、コーダ・ヨーコさん、財津友子さん、下田真里さん、芹川尚子さん、中野紫舞さん、宮田みゆきさん、妙一ひでこさん、吉原尚子さん9名による作品展が開催されました。出品作家9名にちなみ、9つのPartyが準備された展覧会は、個性あふれる彼女たちの作品が所狭しと並び、身近なHappyを気づかせてくれる展覧会となりました。(E.Z)



Party9関連ワークショップ

●Party4 べちゃくちや9 vol.1 2008.12.7

出品作家である財津友子さん、下田真里さん、宮田みゆきさん、吉原尚子さん4名によるアーティストトークが開催されました。出品作品のコンセプトや今後の展開についてそれぞれの作品の前でお話いただきました。(E.Z)



●Party7 メリーぼんぼんクリスマス 2008.12.14 キッズファクトリー

親子でクリスマスカードを作るワークショップを開催しました。夜空には、ぼんぼんでスタンプした雪が降り注ぎ、思い思いに形作った雪だるまやツリー、サンタさんなどが並びました。カードを開くと雪だるまやツリーが立ち上がる構造になっています。世界でたった一つのクリスマスカードが完成しました。(N.I)



●Party5 カレンダーでうしし 2008.12.7 キッズファクトリー

親子で2009年のカレンダーを作るワークショップを開催しました。干支をモチーフにした牛、そして、花や鳥などの型紙を使い、それぞれに好きな色の絵具でぼんぼんと色を重ねていきました。ぼんぼんの布目や色のグラデーションがとても面白いカレンダーが出来ました。2009年も良い年になりますように。(N.I)



●Party8 ころがしておめでとー 2008.12.21 キッズファクトリー

親子でぼち袋を作るワークショップを開催しました。絵具をつけたビー玉を箱の中でコロコロころがして、紙に色んな模様をつけました。それから、水引や千代紙を使い、お正月らしいぼち袋が完成しました。(N.I)



●Party9 かなりファイル 2009.1.12

出品作家妙一ひでこさんが楽器ができるということで、最後は音楽ライブで盛り上がるとう企画されたクロージングパーティ。出品作家お手製の馬拉カスも飛び出し、参加者全員で心ゆくまで楽しみました。(E.Z)

●Party9 かなりファイル 2009.1.12

出品作家妙一ひでこさんが楽器ができるということで、最後は音楽ライブで盛り上がるとう企画されたクロージングパーティ。出品作家お手製の馬拉カスも飛び出し、参加者全員で心ゆくまで楽しみました。(E.Z)



GIII vol.60 熊本市現代美術館収蔵作品展「映像スペシャル:歌！」 2009.1.16-2.15

ギャラリーIII (GIII) で熊本市現代美術館収蔵作品展「映像スペシャル:歌！」が開催されました。当館収蔵作品から、「歌」をテーマに、リュドミラ・ゴルロヴァさん、高嶺格さん、真珠子さん、ギム・ホンソックさんの映像作品が廻りわりで展示されました。4名の作家は歌の持つ力の底知れなさに触れ、その魅力を作品の一部に取り込んでいます。それぞれの作品のなかの歌の使い方、表れ方はそれぞれに異なり、シニカルに問題提起をする歌もあれば、愛らしくも不気味な魅力でもって心に迫る歌もあります。様々な作品の魅力を味わいつつ、「歌ってすごい」と感じることでできる空間となりました。(M.F)



CAMK人形劇「ちびくろサンボ」 2009.1.25

劇団ぱれっとによる人形劇「ちびくろサンボ」の公演がホームギャラリーにて開催されました。森の動物たちとの掛け合いやぐるぐる回るトラの追いかけっこなど、雰囲気満点のジャングルをめぐる少年サンボの冒険にみんな大興奮でした。お話の最後に、天井に届きそうほど山盛りのホットケーキの出でくると、「おいしそう！」と一際大きな歓声が。こどもも大人もちびくろサンボの世界に引き込まれ、楽しい午後のひと時を過ごすことができました。(S.Y)



プレママ+ファミリーツアー 2009.1.25

プレママさんと親子の皆さん向けの館内案内ツアーを行いました。授乳室やキッズサロンなどの便利な施設とともに、館内で無料で楽しんでもいただけるスペースや展示作品を紹介しました。キッズファクトリーでは、日比野克彦さんと制作したMATCH FLAGに興味深々の皆さん。ギャラリーIIIの熊本市現代美術館収蔵作品展「映像スペシャル:歌！」では、歌を歌う巨大な粘土の塊で顔を作っていく高嶺格さんの映像《God Bless America》が人気で、子供たちは作品の前で座り込んで釘付け状態。また、開催中の企画展「荒木経惟 熊本ララバイ」では、参加したお子さんの年齢に近い赤ちゃんが写っている《母子像》とその撮影風景を収めたドキュメンタリー映像《熊本元氣》をご両親は感慨深く、子供たちは楽しそうに見ているのが印象的でした。(A.A)

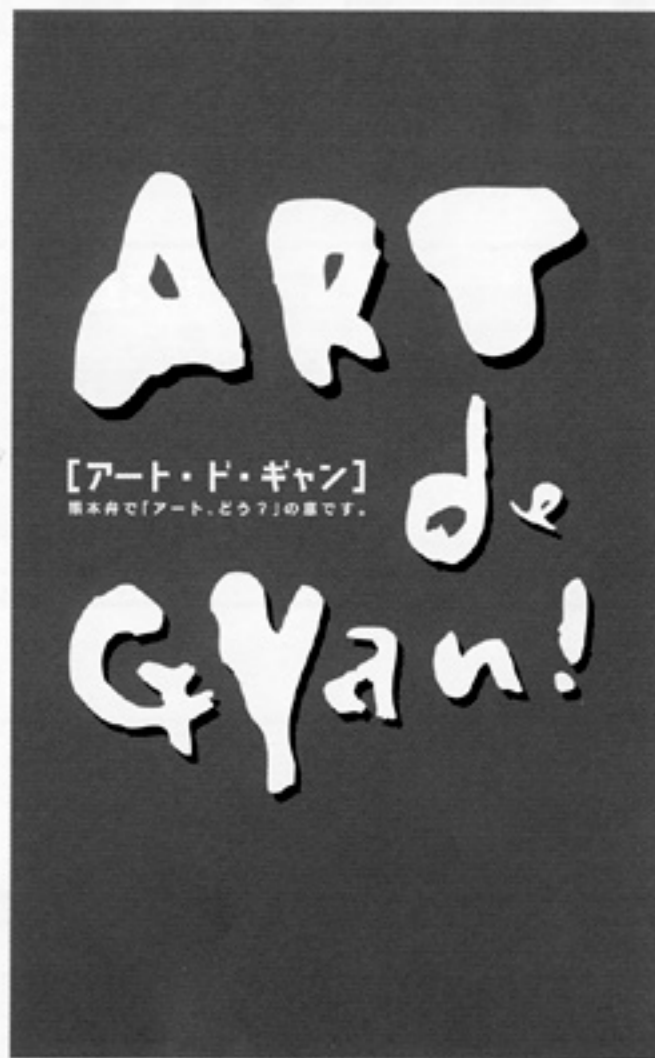
お知らせ

2006年度の活動報告書であるアート・ガマダスvol.5を販売しています。主な企画展である「草間彌生—無限の大海をいく時」、「宮島達男 Beyond the Death 死の三部作」、「熊本の華人展 vol.2」、「熊本アートパレード 第17回熊本市民美術展」、「ハッピーホーム[CAMK コレクションvol.2]」、「アン・ハミルトン[ヴォーチェ]」の講演会記録、会場写真、17回熊本市民美術展による活動のほか、インターナショナル・アドバイザーのケイティ・ティープウェルとヴィクトール・ミジャーノの論文も収録されています。200部限定販売。縦21cm×横14.8cm、500ページ、本体料金2700円、送料340円で、美術館受付ほか通信販売も承ります。

井手宣通記念室を展示替えしました

新春の展示は、「月と太陽」をテーマに開催しました。出品作品は、1980年代後半から最晩年の風景画より、月と太陽の描写のある作品8点を紹介。晩年の井手宣通の、さらにダイナミックに変化していった筆致と、自由で鮮烈な色彩のコンビネーションをお楽しみいただきました。

*出品作品とみどころをご紹介したA5の解説シートを会場内で無料配布しました。



第49回 熊日書道展

2008.12.16-12.21 熊本県立美術館本館
熊本市千歳城町2-18 TEL 351-8411

県下の書壇で最大、最高の書展である。今年は漢字、かな、近代詩文書、少字数書、篆刻、刻字の六部門で、503点の出品があり、212点が選出展示された。審査は日展会員の星弘道氏(漢字)と、同評議員の黒田賢一氏(かな)の新しい審査員が担当した。

グランプリの熊日賞は早崎和子さん(宇土市)の漢字で、県賞は大久保倫子さん(熊本市)のかな。市賞は井上竹華さん(熊本市)の近代詩文をはじめ特選、秀作、入選に委嘱、無鑑査70人の作品である。会場は漢詩や和歌を題材に、力強い線の漢字に、タッチの大きな大字書、繊細な筆遣いのかななど個性あふれる作品群が会場に満ちあふれていた。提供:熊日(S.K)



松永啓之 x 松永壮 ITOKO展

2008.12.18-12.28 マットギャラリー
熊本市田迎6-1-40adcビル1階 TEL 214-3412

熊本でデザイナーとして活動する松永壮さんと、彼のいとこの松永啓之さんのふたりの展覧会。松永啓之さんは、巨大なテーブルと、版画作品、写真作品を出品。アメリカのアーミー達の風俗写真を素材にした版画は、蛍光色を使用しサイケデリックな雰囲気を持たせてあり、大変洗練された作品群であった。テーブルは、写真のプリントを貼り、そこにアクリル樹脂のコーティングをかけたスタイリッシュなものだった。松永壮さんの作品は、アクリルのペインティングが中心で、ポップな印象のロゴをモチーフにしてあり、こちらもアップテンポでアメリカ風な、陽気と洗練があらわれた画面であった。両者とも大変クオリティの高い作品を出品しており、彼らの後継となる20代、30代の熊本の作家たちもぜひ見て、刺激を受けてもらいたいと思った。(H.T)



第33回RKK 学苑総合作品展

2008.12.26-12.21 熊本県立美術館分館
熊本市千歳城町2-18 TEL 351-8411

RKK学苑では、趣味や教養の110講座を開講し、その中から約30講座の作品が展示されていた。絵画や書、写真をはじめ、華やかで豊かな造形のパンフラー、熟考された色彩と構図で作り上げられた染色作品など、皆さんが楽しみながら制作をし、日常生活に取り入れられた活発な生涯学習の場であることが伝わる充実した展覧会であった。(Y.H)



パンフラー作品



近藤節子さんの染色作品

第38回 グループてん展

2009.1.3-1.10 画廊喫茶ジェイ
熊本市大江本町6-9(味噌天神電停前) TEL 096-372-8732

熊本市立帯山中学校の美術部の卒業生仲間で行われているグループ展。今回で38回目を迎える。色鉛筆や水彩、アクリル、油とそれぞれの好きな素材で描かれている作品たちは、台所など日常の風景を抽象的にとらえパステル調に表現されたものや、写実的に捉えた魚や花から妖精がのぞいたり物語性を感じるものなど多種多様に秀でていた。今では旦那さんや奥さん、子どもたちも一緒になって1年に1回行われている。出品者同士、毎回刺激を受けているというこの展覧会、今後の発展がとても楽しみである。(C.T)



第3回表装の会 花桐 グループ展

2009.1.20-1.25 ギャラリーカフェ トト
熊本市上通町5-46上通イーストンビル3F TEL 096-352-7162

飛松路易子さんが指導する教室「花桐」の生徒8人によるグループ展。軸物を中心とした「表装」の展覧会で、古裂や和紙を使って作られたものなど様々な表装が並んでいた。オーソドックスな書軸の表装もあればトランプのためにしつらえた表装もある。裂や紙のつぎを効果的に使ったものや、刺繍をあしらったもの、古裂の文様や色をいかしたものなどそれぞれに見どころがあった。小品が中心だが、小品だからこそ遊び心に溢れた様々な作品が目を楽しませていた。表装された書画などにも佳品が並び、表装と書画の取合せの妙を味わえた。琳派の描表装などに典型的に表れるように、表装も含めて鑑賞対象とする文化は古くからあった。現代では見過ごしがちな表装の魅力に改めて気づかされる展覧会であった。(M.F)



井上尚之とスリップウェア

2009.1.23-2.1 GALLERY KOEN ギャラリーきくち
GALLERY KOEN 熊本市上林町1-28-15 上通センタービル1F奥
ギャラリーきくち 熊本市北千反畑町7-9

荒尾在住の陶芸家、井上尚之さんはスリップウェアと呼ばれるやきものを主に制作されている。スリップウェアとは、17~18世紀に作られていたイギリスの古陶であるが、歴史的に謎多い魅力的なやきものである。井上さんとスリップウェアの出会い、今から8、9年前。福岡県の小石原焼の太田哲三さんに弟子入りし、親方のボン書き(墨流し)といわれる手技に惚れこんだのがきっかけという。今では、個人作家の10倍はスリップウェアを作ると自信を持って語る井上さん。その温厚な人柄と、熱心な職人仕事によるものか、形や文様は非常に健やかであり、用の楽しみ方を広げてくれる魅力的な作品が並んでいた。九州ではまだ認知度が高いとは言えないスリップウェアを、井上さんは今後、若い世代にもっと知って使ってほしいと語っておられた。(M.O)



文学散歩道 冬のおくりもの

2008.12.18-21 ギャラリーカフェ トト
熊本市上通町5-46上通イーストンビル3F TEL 096-352-7162

和歌の構成・解説を浦野知さんが担当し、その和歌のイメージをもとに花芸安達流の内山恵美瞳さんが花を生けるという展覧会。「家づとに貝を拾ふと沖辺より寄せ来る波に衣手濡れぬ」という万葉集の傍らには、花器のなかに貝殻を沈めて花を生けてあり、シンプルな中に歌と華人の思いがうまく調和されていた。また会場中央には展覧会のタイトルである「おくりもの」を彷彿とさせる椿を中心とした大作が生けてあり、訪れる人の目を楽しませていた。(E.Z)



YAYAN'S collection

~山口節代・有富直子・吉田智美・安倍伸子・野村典子による[陶]と[シルバー]の作品~vol.2

2009.1.20-1.25 熊本県伝統工芸館
熊本市千歳城町3-35 TEL 096-324-4930

5人の女性作家による陶芸と銀細工のグループ展。作品から感じられる女性らしい柔らかな個性と繊細さ、全体から感じられる温かさに統一感があり、会場内は明るい雰囲気満ちた状態であった。それぞれの人間味を表すかのような陶器や小物に併せて、5人で順番に手を加えたという共同制作のオブジェもあり、個々を尊重しながらも、作ることを純粋に楽しむ心が感じられた。当展示にあたってはテーマを決めずに制作したとのことだが、ところどころ生けられた花が会場を華やけるとともに空間を繋ぎ、寒さの厳しい1月に春の訪れを思わせる暖かい展覧会となっていた。(S.Y)



WORLD NEWS

ワシントン調査報告とロンドンレポート

鹿島美術財団へ提出する研究の調査として、夏のニューヨーク訪問に引き続き、アーカイヴズ・オブ・アメリカンアート (Archives of American Art 以下AAA) とロスコ財団が寄付した資料が納められているナショナル・ギャラリー・アーカイヴがあるワシントンを訪れた。AAAは、スミソニアン研究所に属する国立の研究機関でアメリカ美術に関する全ての資料が収集されている。モダンなビルにAAAは入っているが(画像1)、一次資料のみならず、他館に納められている資料についてもマイクロフィルムでコピーされ、膨大な資料がここに集められていることから、多くの研究者が調査に訪れる。10日前までに閲覧希望の資料を予約すると、資料が用意された小部屋に通される。今回は、抽象表現主義に関する資料の調査を行った。抽象表現主義は、東洋の影響を受けたとされながらも、グリーンバーグを始めとするアメリカの評論家たちはアメリカ美術の独自性を保つ狙いから、それを否定してきたが、今回の調査でアド・ラインハートのノートから写経などが見つかり、彼らが東洋思想や書から多分に影響を受けていたことを裏付けることになった。またグリーンバーグの手紙を読み進めると、手紙の一部が夏にニューヨークで視察した「Action/Abstraction: Pollock, de Kooning, and American Art, 1940-1976」の資料として貸出しされていた。ナショナル・ギャラリーには、抽象表現主義の画家マーク・ロスコの晩年の作品の大部分が収蔵されており、その関係でロスコ財団の資料も当ギャラリーのアーカイヴに寄贈されている。ここでは、ロスコチャペルの設計図、作品の取引や寄贈先などの事務記録から、作品調査に関する報告など様々な資料を見ることが出来る。ロスコの助手へのインタビュー報告から、ロスコの晩年の制作方法の詳細を知ることができた。

1月にはテート・モダンで開催されているロスコ晩年の作品に絞った大規模な展覧会「ROTHKO」を視察した(画像2)。目玉となっている、テート・モダン、川村記念美術館、ワシントン・ナショナル・ギャラリーがそれぞれ所蔵するロスコの《シーグラム・ビル壁画》15点が一同に会した空間が圧巻であった。本展は、展示作品の変更を行いつつ、《シーグラム・ビル壁画》の所蔵先である日本、アメリカを巡回予定である。これまでロスコの展覧会といえば、いわゆるロスコ様式とよばれる鮮やかな色彩による作品を展示する傾向にあったが、今回企画をしたテート・モダンの狙いは、ロスコ晩年の暗い色調の作品を再検討し、《シーグラム・ビル壁画》がロスコ晩年の暗い色調の作品へとつながる重要な起点となったと位置づけることで、自身が所蔵する《シーグラム・ビル壁画》の作品価値を高めようとしたことにあると思われる。本展では、展示されることが少ないワシントン・ナショナル・ギャラリーのダーク・ペインティングが多数出品されており、当ギャラリーの収蔵庫で見せていただいていたことがあるものの、ホワイト・キューブの中でじっくり見ることが出来る好機となった。ロスコは、高さ、照明など作品の展示に対して強いこだわりをもっていたが、今回の展示では概ね彼が指示した展示方法が採用されていた。大英博物館では、「Statuephilia」という現代彫刻の展覧会が開催されていた。大英博物館の素晴らしいコレクション展示のなかに、ダミアン・ハースト、ロン・ミュエックなど活躍する現代彫刻家の作品を展示した意欲的な展覧会であった。作家たちが、それぞれの展示場所と作品の関連性を熟慮したことが伺え、大英博物館のコレクションと自身の作品が調和した興味深い空間が創出されていた(画像3: ジョージ三世の図書室が移築された、重厚な書棚の空間に溶け込むようにハーストのスカルプ群が展示された会場風景)。(A.A)



昨年より突如はじまった日比野さんのMATCHFLAGプロジェクト、1月上旬は本始動! ということで、新春の晴れがましい空気のなか、運針に燃える1月でした。19、20日と中心市街地に、参加者の皆さんと作ったフラッグがばたばたとたく姿は本当に壮観でした。それにしても冬にファブリックものをつくるというのは、とても楽しい気分になりますね。

編集長 富澤治子

MATCHFLAGプロジェクトは、目標枚数を達成できるのか不安まじりのスタートでしたが、たくさんの人達が集まって、たくさんの方が完成して掲げられた時には思わず感動! こんなことができる熊本っていいですね。美術館では、荒木経惟展も大盛況のうちに幕を下ろし、アートバレードや春に向けての展覧会やイベントも盛りだくさん。春を感じに美術館に遊びに来て下さいね。

担当 大岩みゆき

●執筆者一覧 ●ギャラリー取材原稿の文面にイニシャルにて記載しております。

兼城昌山
Syozan Kaneshiro (書道家)
森山淡草
Tanso Moriyama (書道家)
桜井 武
Takeshi Sakurai (熊本市現代美術館館長)
本田代志子
Yoshiko Honda (熊本市現代美術館主任学芸員)
蔵座江美
Emi Zoza (熊本市現代美術館学芸員)

富澤治子
Haruko Tomisawa (熊本市現代美術館学芸員)
坂本鏡子
Akiko Sakamoto (熊本市現代美術館学芸員)
芦田彩英
Aki Ashida (熊本市現代美術館学芸員)
伊豆菜々
Nana Izu (熊本市現代美術館学芸員アシスタント)
矢加部 咲
Saki Yakabe (熊本市現代美術館学芸員アシスタント)

大岩みゆき
Miyuki Oiwa (熊本市現代美術館学芸員アシスタント)
藤本真帆
Maho Fujimoto (熊本市現代美術館学芸員アシスタント)
高橋知江
Chie Takahashi (熊本市現代美術館学芸員アシスタント)

Visitor's Letter

来館者のみなさんからのメッセージ アンケートに寄せられた感想(抜粋)をご紹介します。

◇メモリアまなざしの軌跡展

・切り口が面白く、様々なことを考えさせられる素晴らしい展示だった。アナザー・マウンテンマンさんの展示がよかったです。ラン・ウェイ・ロウという言葉を知りました。人間のたくましさや痛々しさ、切なさや時間の流れ、移り変わりなどが生々しく表現されていると思います。(33歳、女性、東京都)

・世界的なコンテンポラリー・アートが九州で観られた事が良かった。(38歳、女性、福岡県)

・もっと見たいという気持ちになりました。知人である千々岩さんの作品を見ることができて嬉しく思っています。(24歳、男性、東京都)

・須田悦弘さんの雑草がすみに咲いているのを見つけたときには嬉しかったし、日常にある小さな風景を見つけた気持ちになりました。(21歳、女性、熊本市内)

◇荒木経惟 熊本ララバイ展

・日記のような写真が、一瞬一瞬を物語っていて人間らしさを感じた。(19歳、女性、熊本市内)

・ポラロイドが張りめぐらされている「日記」のコーナーで、生々しい写真の中にちりばめられていた空の写真が印象に残っています。富山の女性0歳~104歳までの写真が印象深かったです。(17歳、女性、福岡県)

・同じ子供をもつ親として母子像の他のママを見ることができ、また私もがんばろうと励まされました。(29歳、女性、熊本県)

・人の生きる姿、過程が写真として素晴らしい表現できていたと思います。生きる喜びが肌で実感できました。(22歳、女性、熊本県)

・この場所でなければ見られない企画・展示なので来た甲斐があった。(27歳、男性、大分県)

・アラキーさんの愛妻、陽子さんを最期まで握り続けた写真は、切なく胸に迫るものがあった。それから母子像の撮影風景のVTRが、アラキーさんの人柄が伝わってきて良かった。(28歳、女性、愛知県)

・「母子像」が一番印象に残っている。自分もこのように生まれてきたのだという実感がわいた。今生きているのはすごいことだと思った。(21歳、男性、熊本県)

・私は応募する勇気がなかったけど、一般の方の素晴らしい表情に感動しました。(32歳、女性、熊本県)

・写真集で見たことのある写真。それがリアルに目の前に展示している。生々しく写真に息使いすら感じた。本にはない味わい。カタログ完売は残念!(32歳、女性、沖縄県)

・子供も一緒でしたが、よく見ており「生」について何かを感じているようでした。後々、母子の写真の話をすることもあり、印象に残った様です。(34歳、女性、熊本市内)

・荒木さんの写真の知らない面を知ることができました(49歳、女性、福岡県)

・幼子を抱いた若い母と子の写真は、生命そのものの息吹すら感じさせます。一応母子裸ではありますが、人間の崇高さすら感じさせられました。(59歳、男性、熊本市内)

・著名なアーティストには感動させられる。共鳴することができる。このような機会を増やしてほしい。(62歳、男性、熊本市)

・親子の写真はよかった。皆笑顔なのが特に。(74歳、男性、熊本市)

◇館内について

・ベビーカーを貸して頂き助かりました。(29歳、女性、熊本県)

・フロアガイドがあったので、どんな作品なのか理解することができました。(20代、男性、熊本県)

・念願のホームギャラリーの本棚の中での読書が出来ました。本棚(HPに載っている画像)のポストカードが絶対あると思ったのになくて残念でした。是非作ってほしいです。(28歳、女性、愛知県)

・子供も絵本等ですごく楽しめ、ゆつくりできました。(32歳、女性、熊本県)

・館内がゆったりしていてよかった。水飲み場が欲しい。(30歳、男性、福岡県)

・静かな音楽の中で、心のリフレッシュになりました。(48歳、男性、熊本県)

・心地よい空間であり、非日常をふと思わせるところであり、私にはBEST!(62歳、男性、熊本市内)

●発行元/ART KISS LETTER アート・キッス・レター Vol.41
2009年3月発行(春号) ●無料●
●発行人/桜井 武 編集長/富澤 治子 担当/大岩 みゆき
●デザイン/(有)松永 社デザイン事務所 ●印刷/コロニー印刷
●発行/熊本市現代美術館 〒860-0845 熊本市上通2-3
TEL.096-278-7500 FAX.096-359-7892